

杜^{もり}の都仙台の風物詩「仙台七夕祭り」を彩る吹き流し。一基五十万〜百万円以上をかけた毎年作られる七夕飾りですが、役目を果たすと多くは廃棄処分されます。

震災時、宮城県山元町に住んでいた齋藤志津子さんは津波で自宅が全壊。仙台市内の卸町に建てられた仮設住宅に移り住みました。そこでは自治会が組織され、被災した方々の生活支援と心のケアも始まり、「卸町5丁目仮設住宅町内会手作りくらぶ」が誕生しました。

志津子さんは当時、七夕飾りを製作する「鳴海屋紙商事」(仙台市)に勤めており、鳴海社長から使用済みの七夕飾りを提供され「七夕飾りリメイクカードケース」を

一般社団法人 IKI ZEN
代表理事

齋藤由布子さん



東北復興日記



147

七夕飾りをリメイク

作り始めます。完成した商品は私が勤務していた、観光・産業の復興を支援する拠点施設「東北ろっけんパーク」(同)でも販売を開始。復興グッズの作り手による直売会への出店もお願いしました。

当初、志津子さんは未経験の対面販売に消極的でしたが、私はどうしても七夕祭り期間中の直売会に出店してほしいだったので、半ば強引に彼女たちを引っ張り出しました。

それがきっかけで団体は直売会出店の常連となり、仙台市内のショッピングセンター「エスパル仙台店」や全国各地で開催される販売会に出かけるようになるまでに成長しました。また、市内の民芸品店「三好堂」から商品デザインのアドバイスを受け、コラボ作品となる高級カードケース⇨写真も開発しました。今年六月、志津子さんは仮

設住宅から復興公営住宅に入居しました。それを機に組織を再編し、団体名も新たに「手作りくらぶ arabes que」として六人で再スタートしました。アラベスクとは唐草模様のこと、絆やご縁がつながるようになっていっかが込められています。きつと今年の仙台七夕祭りにも思いをはせることでしょう。

カードケースは一個三百七十八円(税込み)。「東北ろっけんパーク」で八月まで販売中。仙台七夕祭りは八月六〜八日開催です。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

